

令和4年度全国学力・学習状況調査結果

川西市教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。
(令和4年度実施要領より)

(2) 実施日 令和4年4月19日(火)

(3) 対象 小学校調査(小学校第6学年)、中学校調査(中学校第3学年)

(4) 調査内容

- ・教科に関する調査(小学校は、国語、算数、理科。中学校は、国語、数学、理科。) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項。出題内容は、以下のとおり。
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- ・調査する学年の児童生徒を対象に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査。

(6) 市内の参加状況

■ 小学校実施人数(16校)

国語	1,287名	算数	1,288名
理科	1,287名	児童質問紙	1,287名

■ 中学校実施人数(7校)

国語	1,102名	数学	1,102名
理科	1,106名	生徒質問紙	1,114名

(7) 調査結果の取扱いについて

本調査の結果を教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であり、序列化や過度な競争が生じないように留意する。調査結果の状況については、文部科学省国立教育政策研究所の報告書において、平成31年度(令和元年度)より「平均正答率の±10%の範囲内にあり、大きな差は見られない」と表現している。また、経年で変化を分析しているという理由で、「平均正答率の±5%の範囲内にあ

り、大きな差は見られない」と引き続き表現している都道府県や市町村がある。本市においても、文部科学省の趣旨をふまえ、公表資料を作成することとする。

2. 教科に関する調査結果の概要

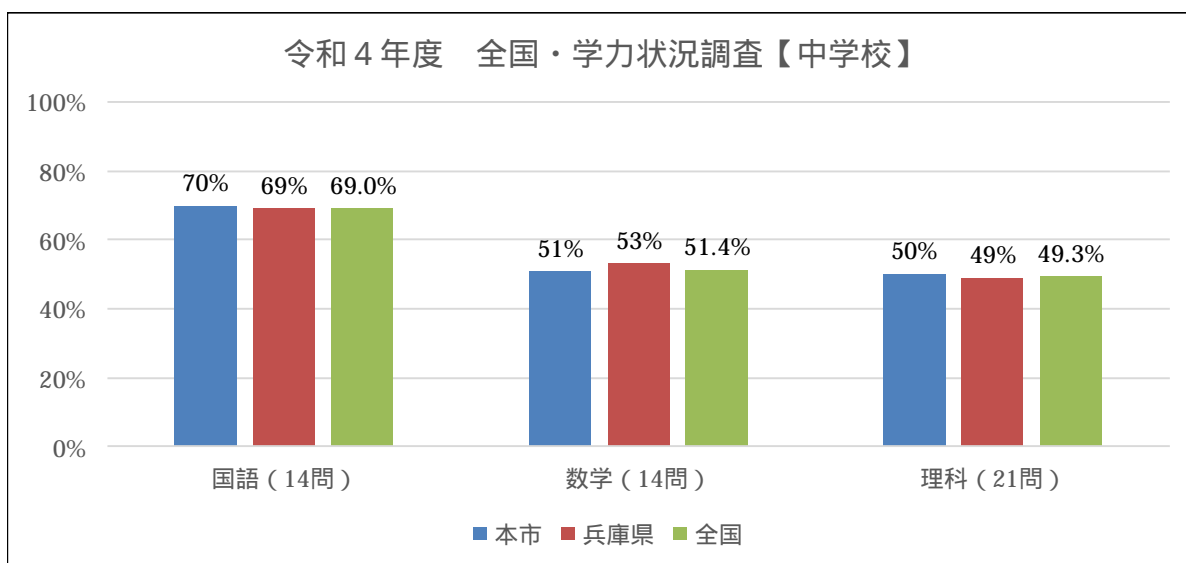
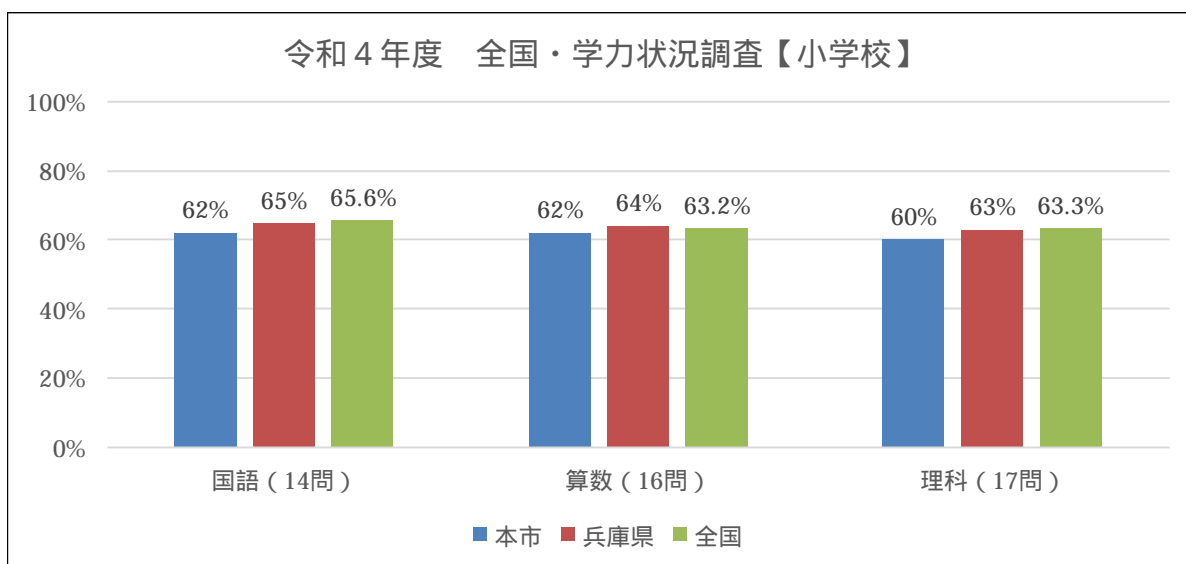
令和4年度全国学力・学習状況調査における川西市の平均正答率と全国（公立）の平均正答率の状況については、以下のとおりである。（国は小数第1位までの公表）

【小学校】

- ・国語 は 62%（兵庫県比-3、全国比-3.6）
- ・算数 は 62%（兵庫県比-2、全国比-1.2）
- ・理科 は 60%（兵庫県比-3、全国比-3.3）

【中学校】

- ・国語 は 70%（兵庫県比+1、全国比+1.0）
- ・数学 は 51%（兵庫県比-2、全国比-0.4）
- ・理科 は 50%（兵庫県比+1、全国比+0.7）



3. 問題別解答状況

【小学校 国語】

問題 番号	問題の概要	領域	正答率	
			川西市	全国
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い 方に関する事項	83.4	85.5
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い 方に関する事項	67.3	68.8
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	82.6	84.7
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く	話すこと・聞くこ と	44.2	47.7
2一 (1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	読むこと	65.8	68.4
2一 (2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	読むこと	73.6	70.6
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="text"/> A に入る内容を書く	読むこと	68.5	68.3
2三	【山村さんの文章】の <input type="text"/> B に入る内容として適切なものを選択する	読むこと	57.0	59.2
3一	【文章2】の「 <input type="text"/> 」の部分で、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	書くこと	54.9	59.2
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	書くこと	31.7	37.7
3三	【文章2】の中の——部アを、漢字を使って書き直す(ろくが)	言葉の特徴や使い 方に関する事項	59.1	65.2
3三 イ	【文章2】の中の——部イを、漢字を使って書き直す(はんせい)	言葉の特徴や使い 方に関する事項	55.8	58.7

3三 ウ	【文章2】の中の——部ウを，漢字を使って書き直す（したしむ）	言葉の特徴や使い 方に関する事項	62.9	67.1
3四	（一）から（二）に書き直した際， 気を付けた内容として適切なもの を選択する	我が国の言語文化 に関する事項	66.7	77.9

【小学校 算数】

問題 番号	問題の概要	領域	正答率	
			川西市	全国
1(1)	1050×4を計算する	数と計算	91.6	92.4
1(2)	14と21の最小公倍数を求める	数と計算	70.2	72.2
1(3)	カップケーキ7個分の値段を，1470÷3で求めることができるわけ を書く	数と計算	74.9	76.0
1(4)	85×21の答えが1470より 必ず大きくなることを判断するた めの数の処理の仕方を選ぶ	数と計算	30.0	34.8
2(1)	果汁が25%含まれている飲み物 の量を基にしたときの，果汁の量 の割合を分数で表す	変化と関係	69.3	71.1
2(2)	果汁が40%含まれている飲み物 の量が1000mLのときの，果汁 の量を書く	変化と関係	63.6	64.6
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量を 半分にしたときの，果汁の割合につ いて正しいものを選ぶ	変化と関係	20.3	21.4
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物 に果汁が180mL入っているとき の，飲み物の量の求め方と答えを 書く	変化と関係	47.4	48.0
3(1)	表のしりとりの欄に入る数を求める 式と答えを書く	数と計算 データの活用	77.6	75.3
3(2)	分類整理されたデータから，全員の 希望が一つは通るように，遊びを選 ぶ	データの活用	64.2	63.9
3(3)	1年生と6年生が希望する遊びの 割合を調べるためのグラフを選び， そのグラフから割合が一番大きい 遊びを選ぶ	データの活用	64.4	66.8

3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	数と計算	68.4	67.7
4(1)	示されたプログラムについて、三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	図形	51.6	48.8
4(2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形	83.4	83.2
4(3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形	68.6	66.5
4(4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	図形	52.6	57.6

【小学校 理科】

問題番号	問題の概要	領域	正答率	
			川西市	全国
1(1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	「生命」を柱とする領域	92.6	92.9
1(2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	「生命」を柱とする領域	66.0	67.5
1(3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	「生命」を柱とする領域	66.5	73.1
1(4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	「生命」を柱とする領域	75.8	76.1
1(5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	「生命」を柱とする領域	62.5	65.5
2(1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	「粒子」を柱とする領域	58.1	67.8
2(2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	「粒子」を柱とする領域	66.0	70.0

2(3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	「粒子」を柱とする領域	62.0	62.8
2(4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	「粒子」を柱とする領域	34.3	39.3
3(1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	「エネルギー」を柱とする領域	24.3	27.8
3(2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	「エネルギー」を柱とする領域	71.9	74.4
3(3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	「エネルギー」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域	68.5	68.9
3(4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	「エネルギー」を柱とする領域	29.8	35.1
4(1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	「地球」を柱とする領域	81.2	82.3
4(2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	「地球」を柱とする領域	58.5	64.5
4(3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	「地球」を柱とする領域	47.3	45.5
4(4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	「粒子」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域	60.1	62.0

【中学校 国語】

問題番号	問題の概要	領域	正答率	
			川西市	全国
1ー	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	話すこと・聞くこと	73.4	74.7

1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものと適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	63.2	65.1
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと,そのように話す意図を書く	言葉の特徴や使い方に関する事項 話すこと・聞くこと	50.5	51.8
2一	意見文の下書きの一部について,文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.0	82.3
2二	漢字を書く(のぞく)	言葉の特徴や使い方に関する事項	85.9	82.1
2二	漢字を書く(よろこんで)	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.8	80.5
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し,意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	情報の扱い方に関する事項 書くこと	46.1	46.5
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き,同じ表現の技法が使われているものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.3	52.5
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	87.6	84.0
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	読むこと	65.3	62.0
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて,話の展開を取り上げて書く	読むこと	74.1	73.8
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものと適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	39.5	39.4
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものと適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	92.3	90.1
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものと適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	81.8	81.1

【中学校 数学】

問題 番号	問題の概要	領域	正答率	
			川西市	全国
1	42を素因数分解する	数と式	33.0	52.2
2	連立二元一次方程式を解く $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$	数と式	77.3	74.5
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	図形	47.2	44.9
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	関数	34.7	37.9
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	データの活用	83.7	83.3
6(1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	数と式	77.0	73.8
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	数と式	47.6	48.7
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	数と式	36.7	37.6
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの活用	45.6	44.0
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	データの活用	40.1	44.1
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	関数	58.2	54.6
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	関数	40.5	38.4
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	図形	75.5	73.2
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	図形	13.2	12.5

【中学校 理科】

問題 番号	問題の概要	領域	正答率	
			川西市	全国
1(1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	「エネルギー」を柱とする領域	44.5	44.2
1(2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	「エネルギー」を柱とする領域	78.7	78.5
2(1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	「地球」を柱とする領域	52.5	54.2
2(2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	「地球」を柱とする領域	44.8	40.8
2(3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	「地球」を柱とする領域	29.7	28.5
3(1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	「粒子」を柱とする領域	80.2	80.1
3(2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	「粒子」を柱とする領域	60.3	60.2
3(3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもとを指摘する	「エネルギー」を柱とする領域 「粒子」を柱とする領域	21.5	24.8
4(1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	「生命」を柱とする領域	75.0	74.5
4(2)	脊椎動物には骨格のつくりに通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	「生命」を柱とする領域	65.5	65.6
5(1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	「エネルギー」を柱とする領域	11.2	15.3

5(2)	「ばねが縮む長さは，加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために，適切に処理されたグラフを選択する	「エネルギー」を柱とする領域	44.2	45.0
5(3)	考察の妥当性を高めるために，測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	「エネルギー」を柱とする領域	45.8	43.3
6(1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し，その理由を選択する	「地球」を柱とする領域	51.0	48.0
6(2)	陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて，垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し，水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	「地球」を柱とする領域	61.5	60.3
6(3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから，地層が傾いている向きを選択する	「地球」を柱とする領域	34.8	34.2
7(1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	「粒子」を柱とする領域	35.4	35.9
7(2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について，課題に正対しているかどうかを検討し，必要な実験を指摘する	「粒子」を柱とする領域	57.1	53.4
8(1)	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に，課題に正対した考察を記述する	「生命」を柱とする領域	56.7	55.2
8(2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合，その意味することや考えられる可能性について考え，実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	「生命」を柱とする領域	54.5	55.1
8(3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら，観点と基準を明確にして判断する	「生命」を柱とする領域	39.6	39.2

川西市の小学校及び中学校の教科に関する調査結果において、全国と比べて大きな差は見られない。各学校で、全国学力・学習状況調査の問題別回答状況等の結果を踏まえ、授業改善に努めていく。

全国学力・学習状況調査の問題や解説については、下記URLにてご覧いただけます。
 国立教育研究所HP 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



4. 質問紙調査の結果（児童生徒質問紙）

市教育委員会では、児童生徒質問紙調査を活用し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する項目から、学力との関係性が伺える項目をピックアップし、経年比較を行っている。今年度取り上げられていない質問項目についても、今後、一定のサイクルで質問紙調査に掲載されることが予想される。そのため、児童生徒の変容をみていくため、「該当なし」として掲載している。

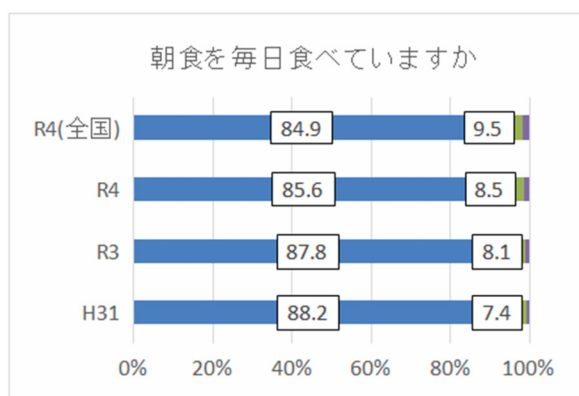
（グラフの凡例）

あてはまる	どちらかといえばあてはまる
どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない

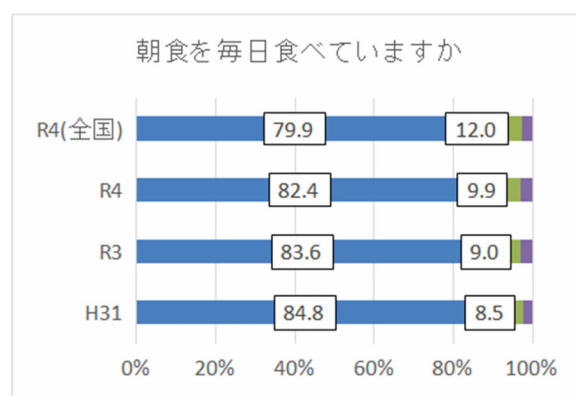
* 令和2年度全国学習・学力学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため未実施。

基本的な生活習慣

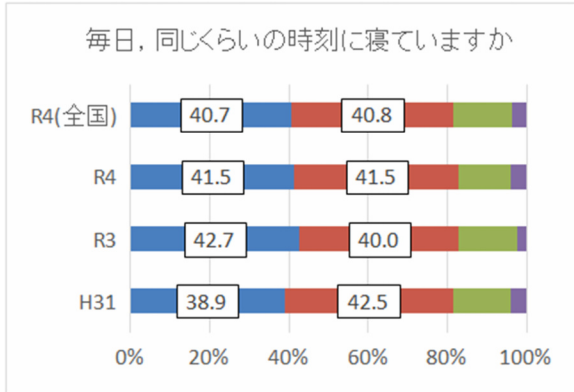
【小学校】



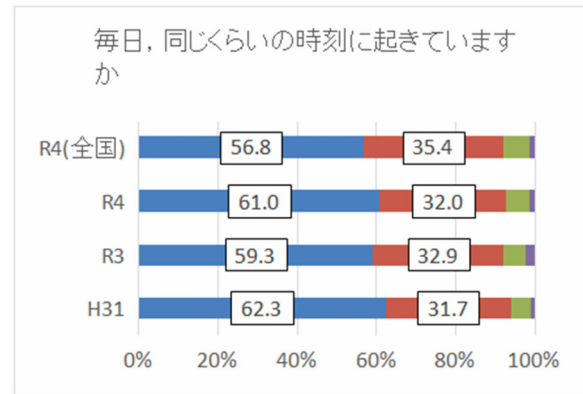
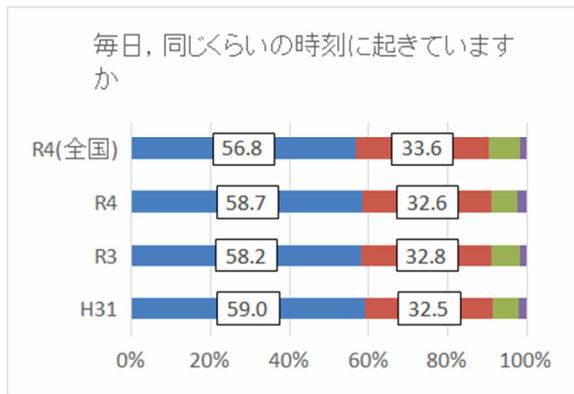
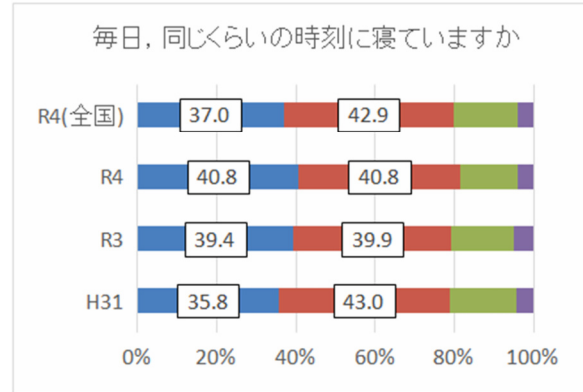
【中学校】



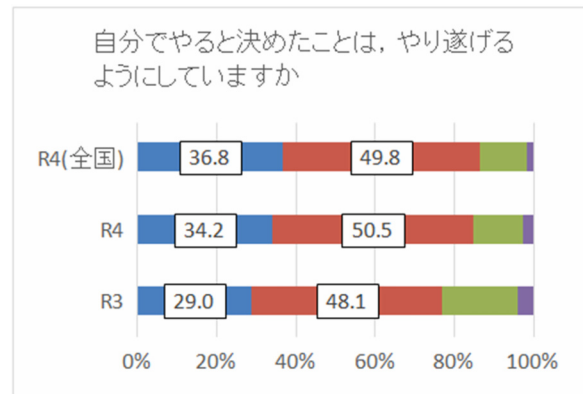
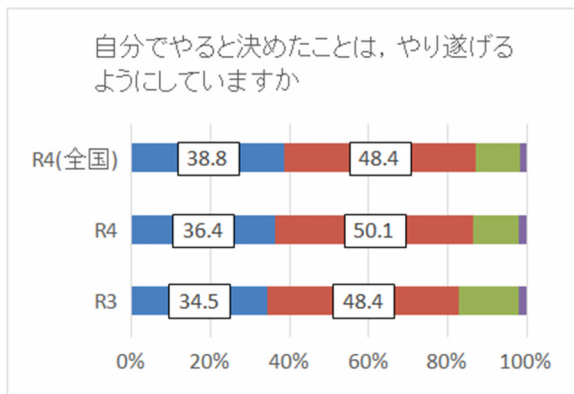
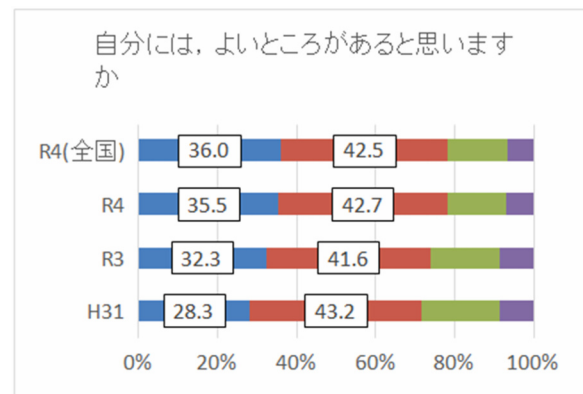
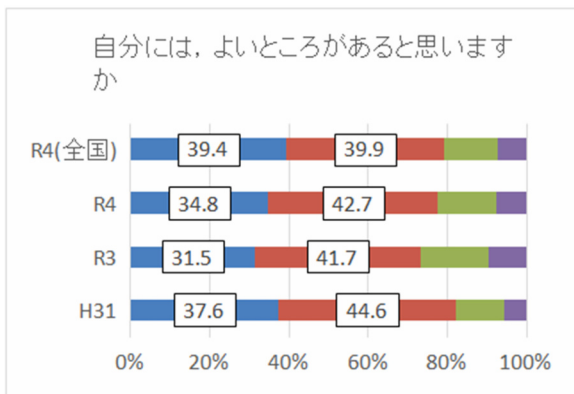
【小学校】



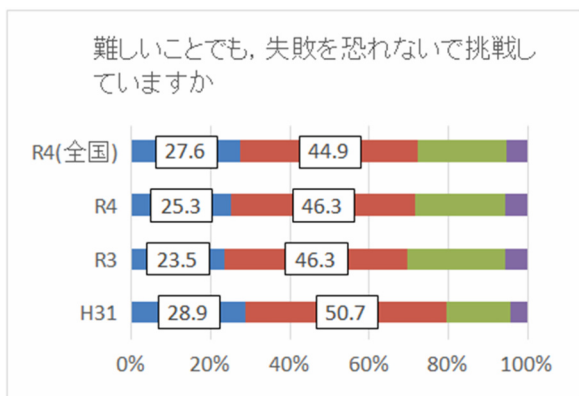
【中学校】



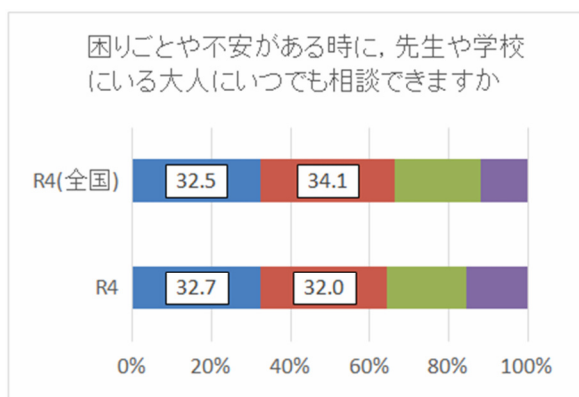
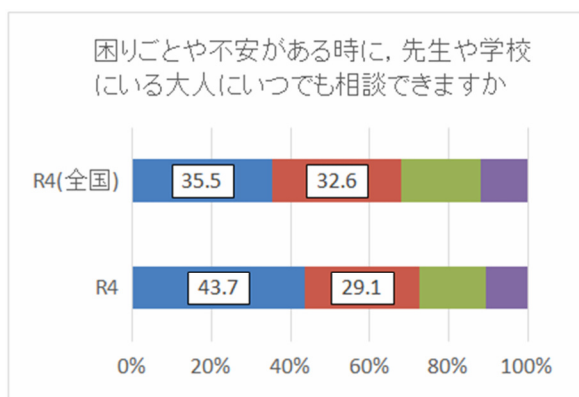
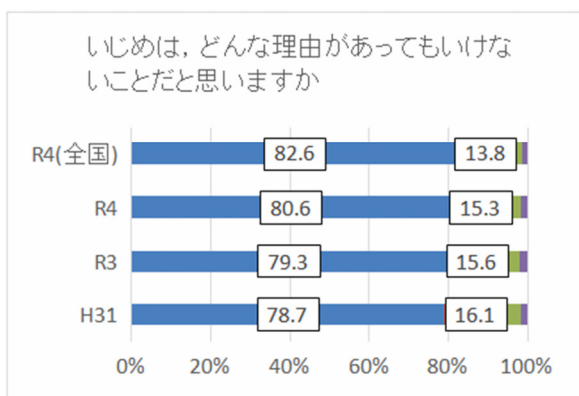
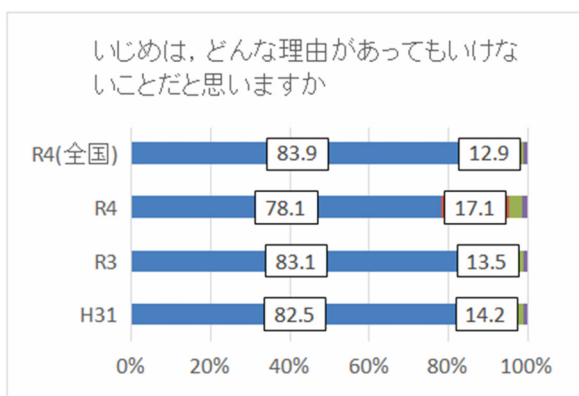
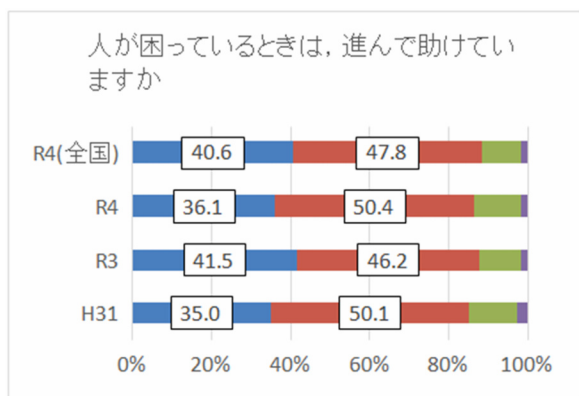
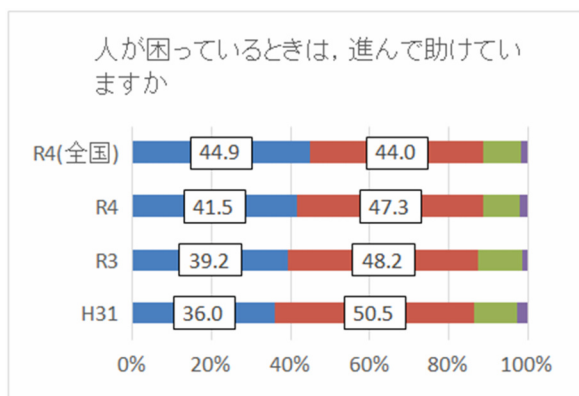
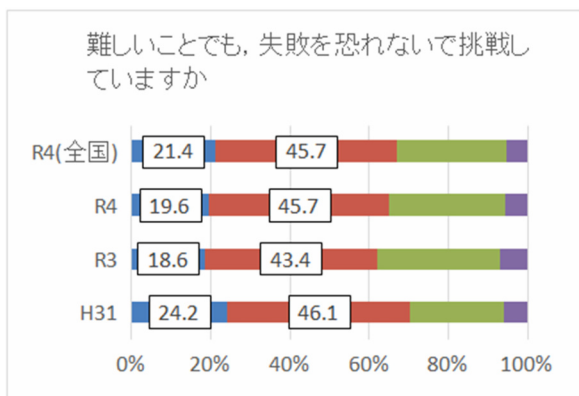
挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感



【小学校】

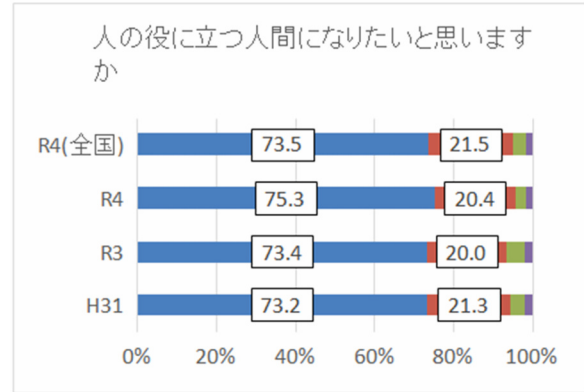
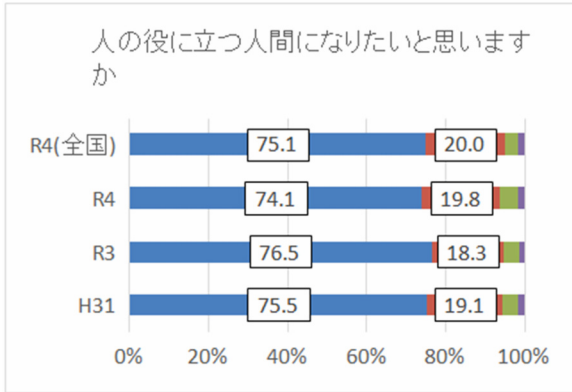


【中学校】

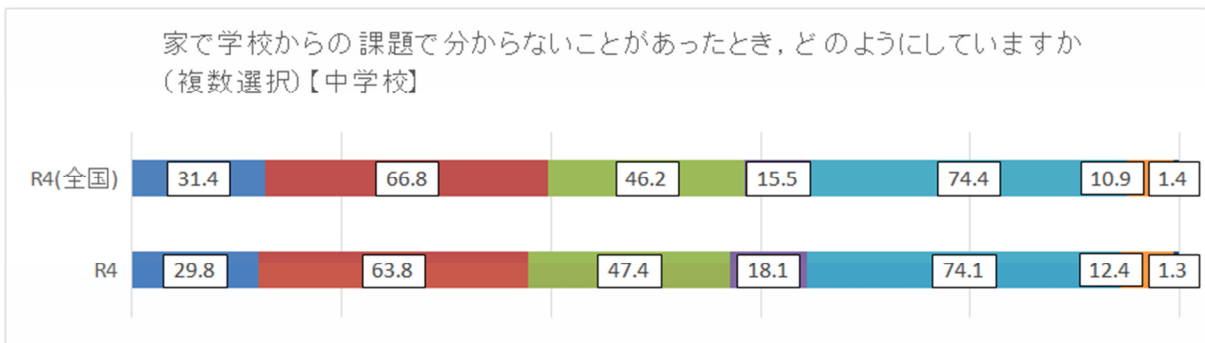
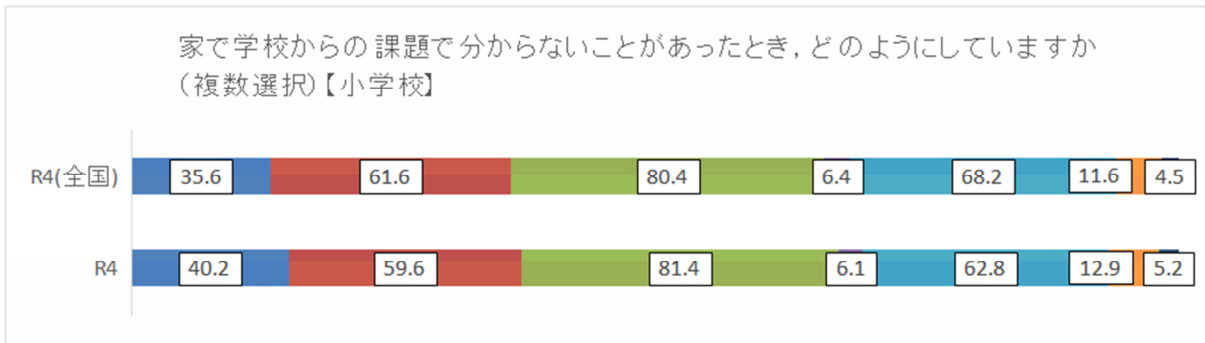


【小学校】

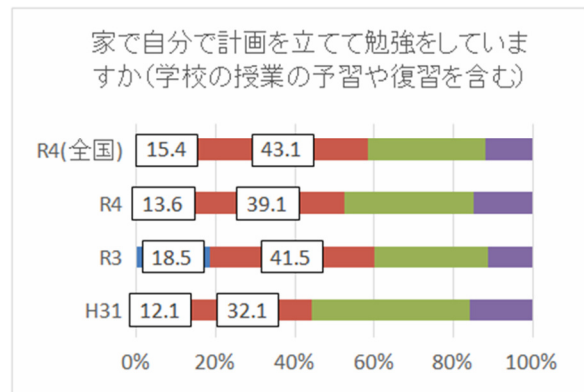
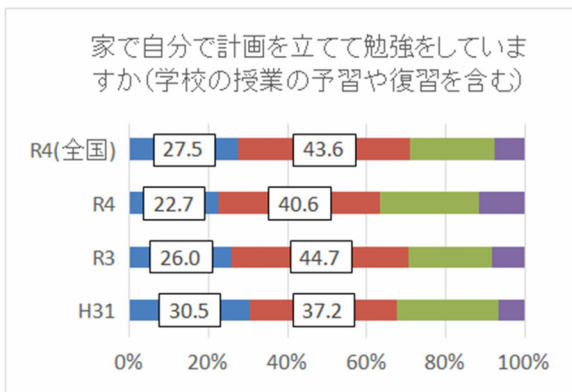
【中学校】



先生に聞く 友達に聞く 家族に聞く 上記1, 2, 3以外の人に聞く
 自分で調べる 分からないことはそのままにしている 分からないことはない

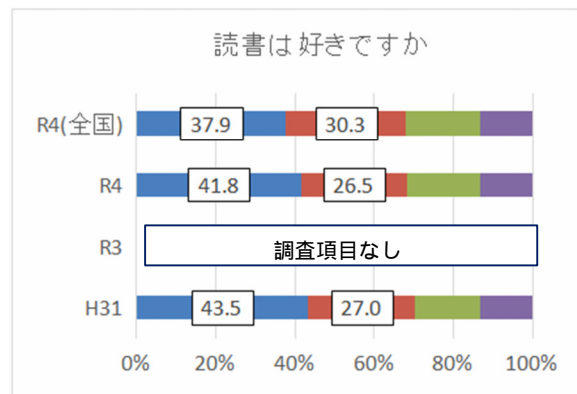
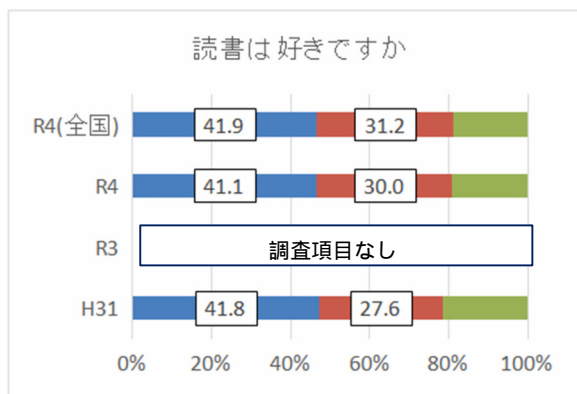


学習習慣・学習環境等

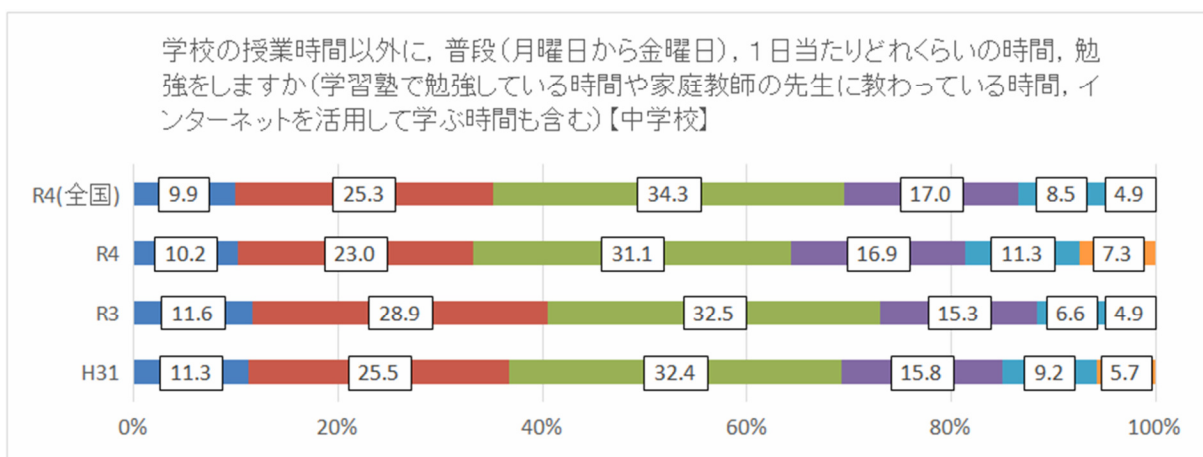
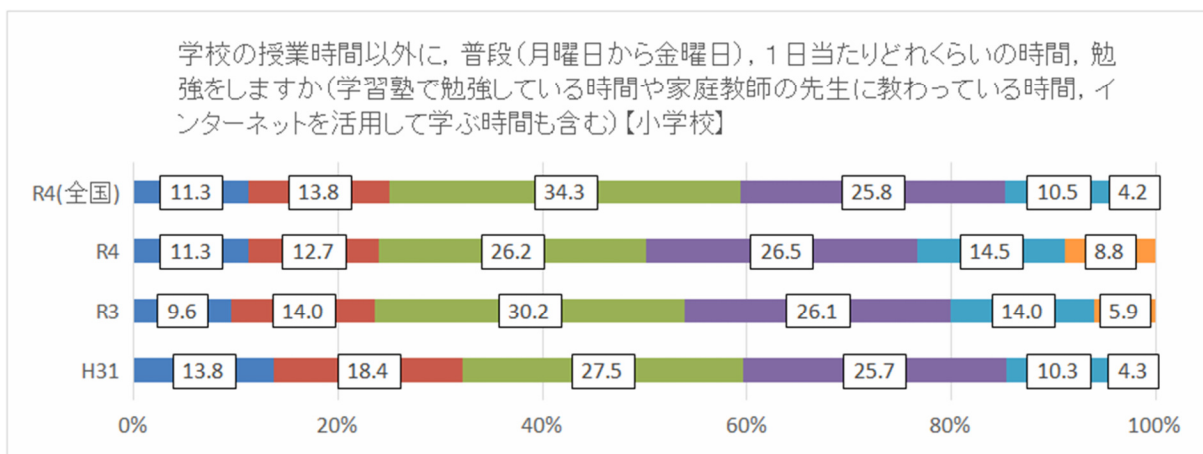


【小学校】

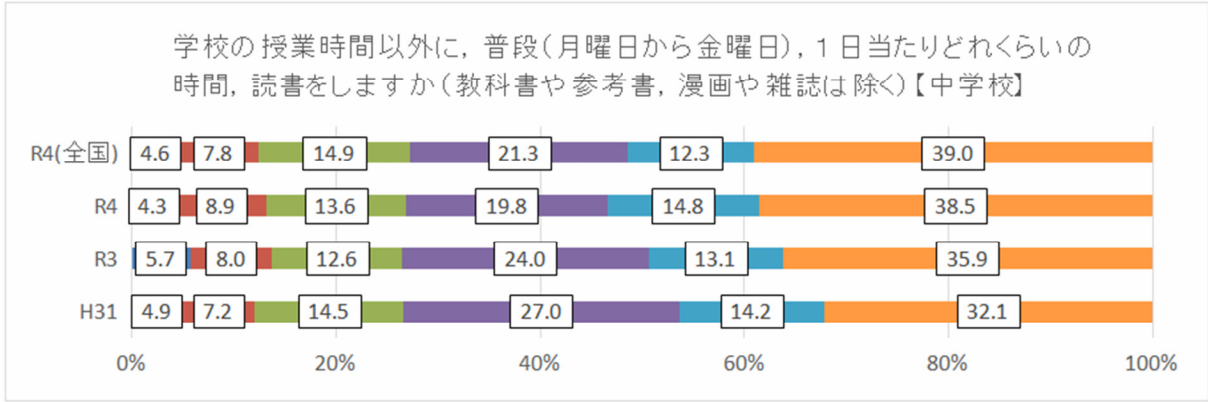
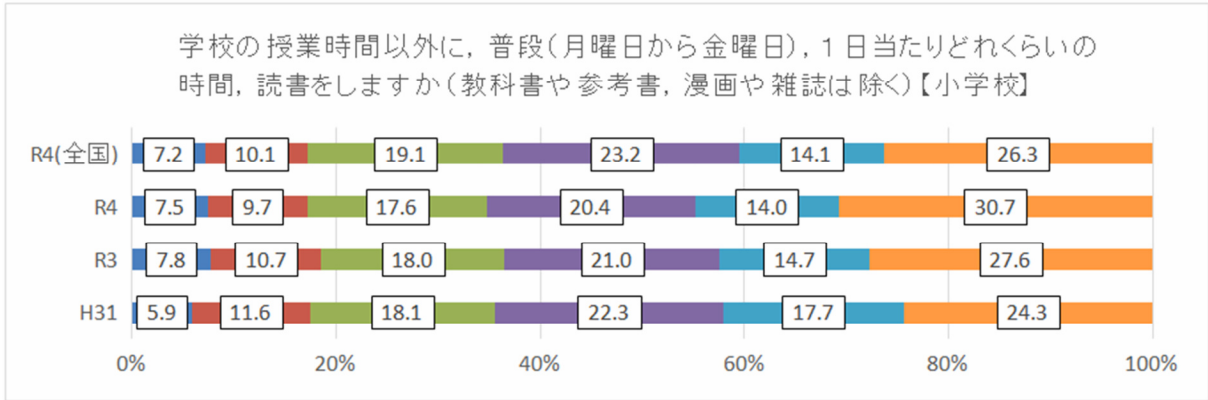
【中学校】



3時間以上 2時間以上 1時間以上、2時間より少ない 30分以上1時間より少ない
 30分より少ない 全くしない

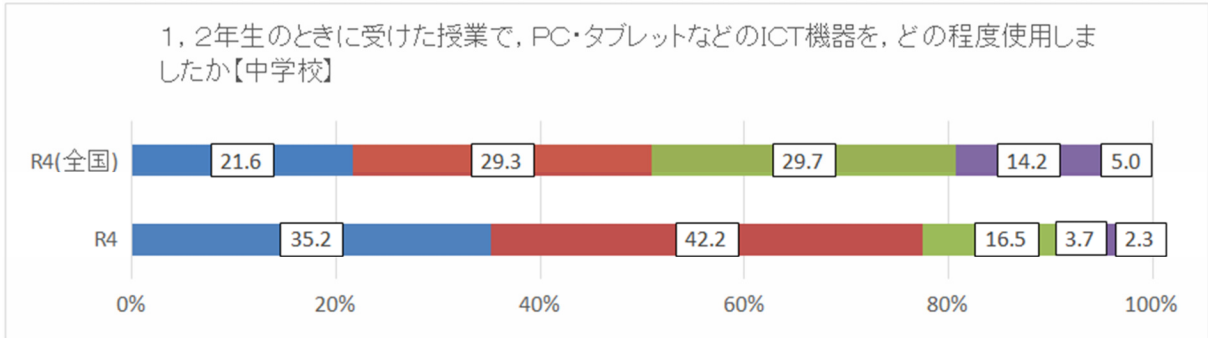
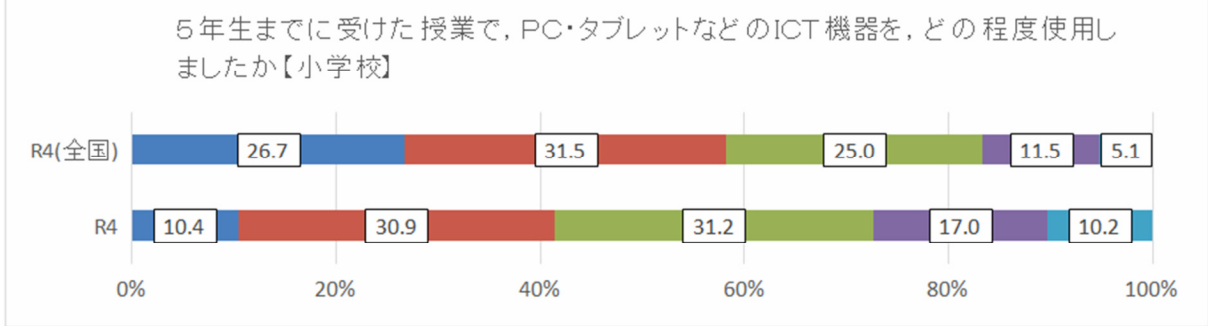


3時間以上	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない
10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全くしない

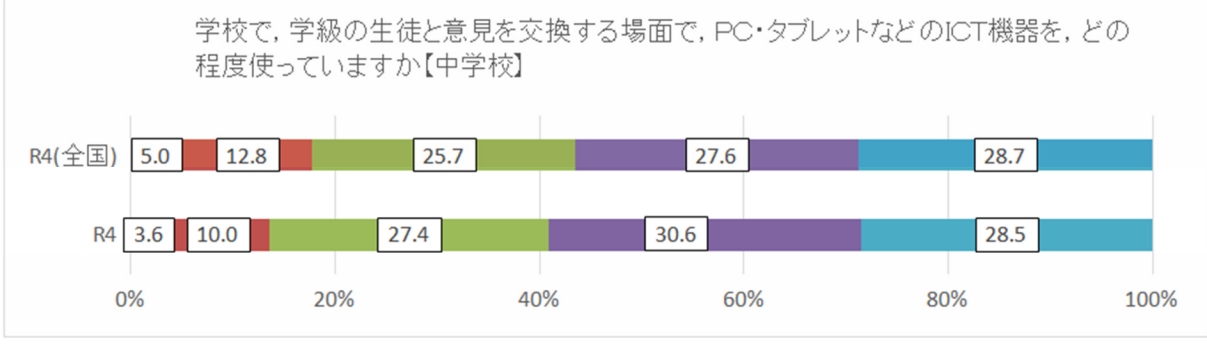
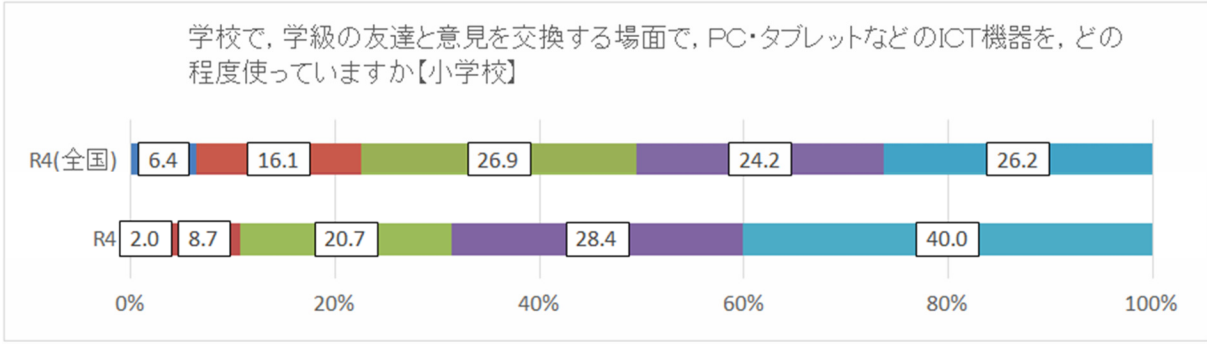
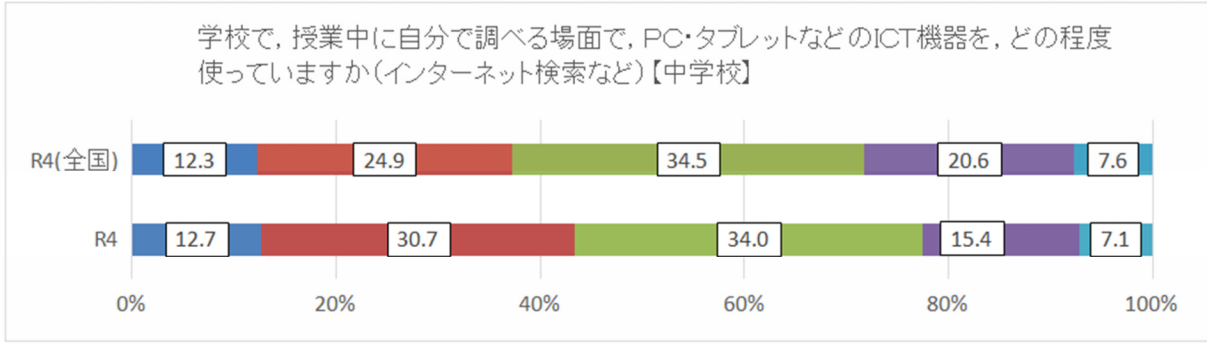
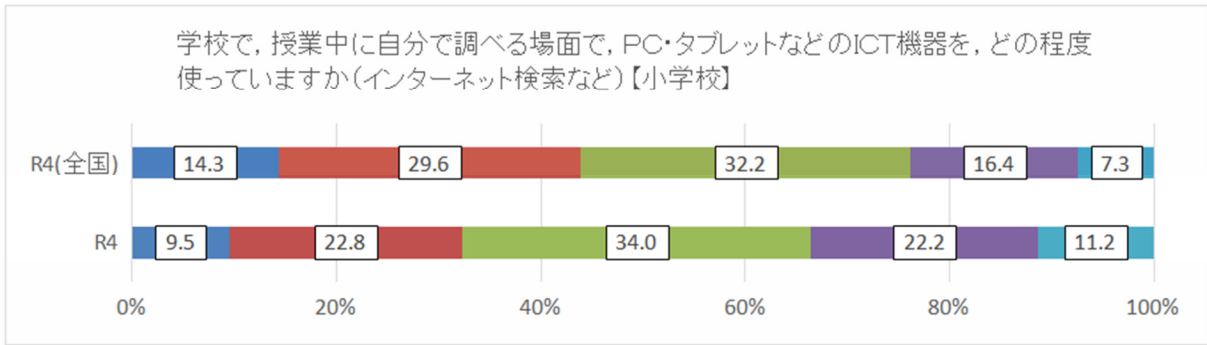


ICTを活用した学習状況

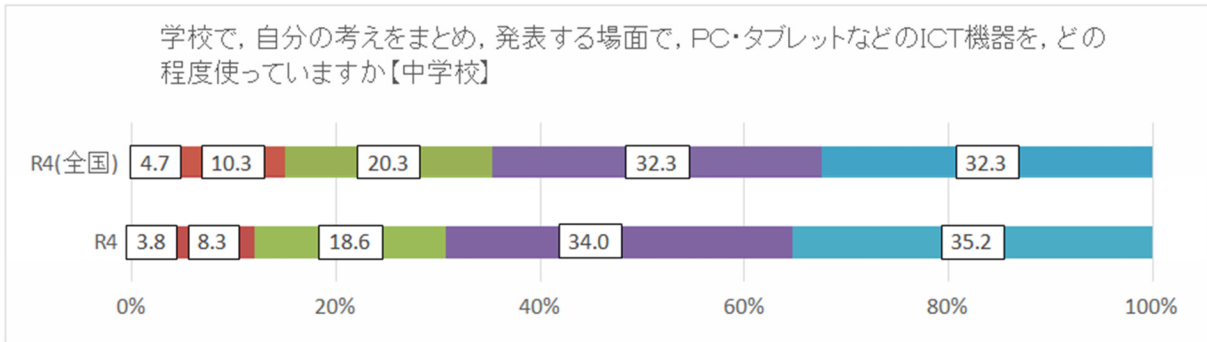
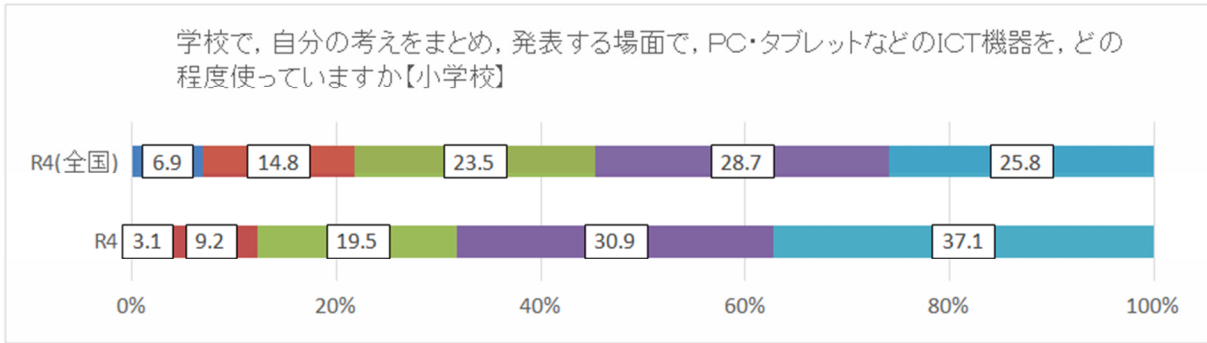
ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
------	-------	-------	-------	-------



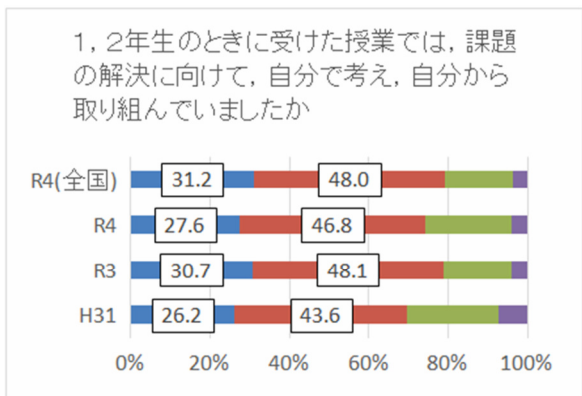
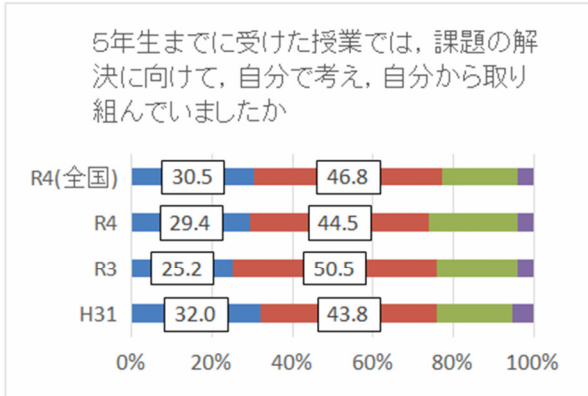
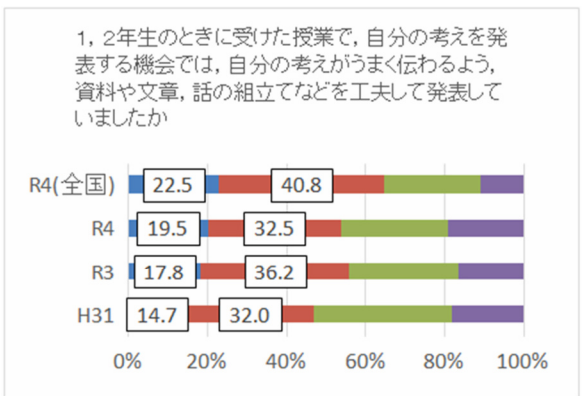
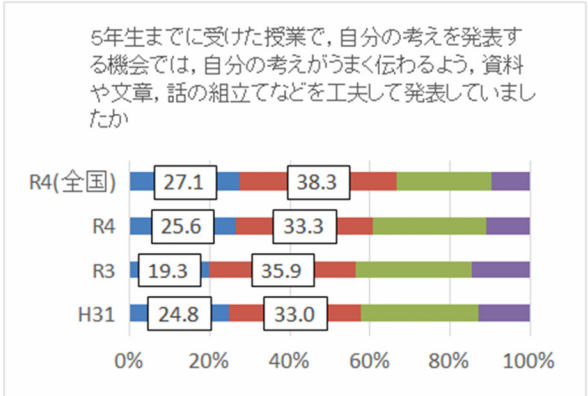
ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上 月1回未満



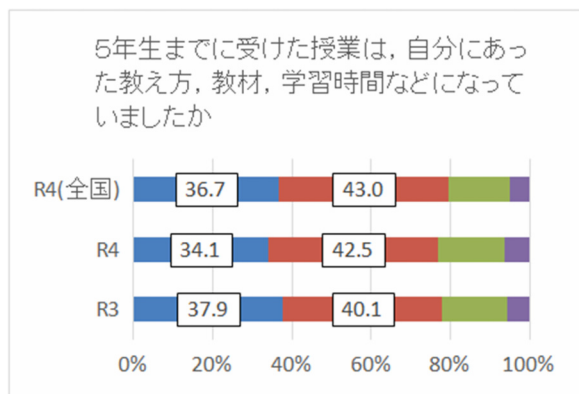
ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上 月1回未満



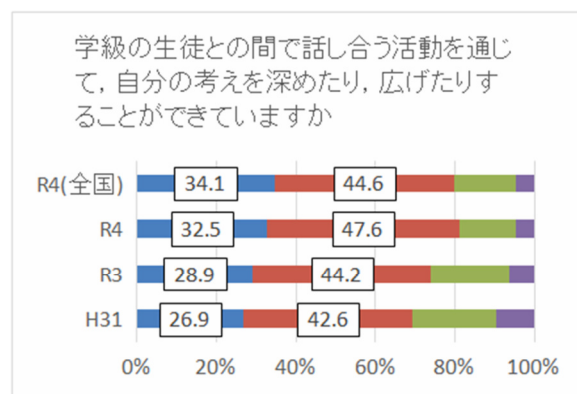
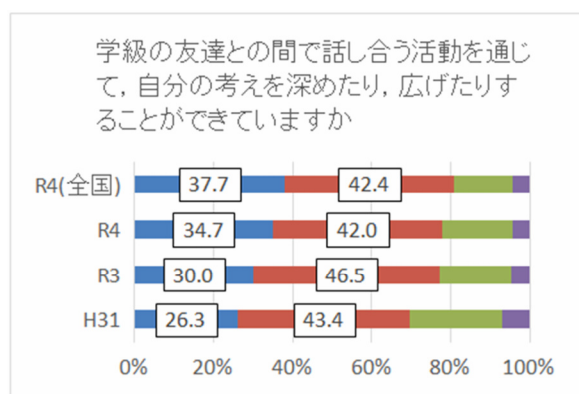
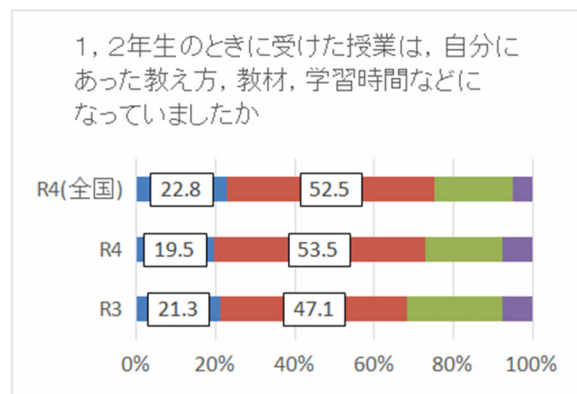
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況



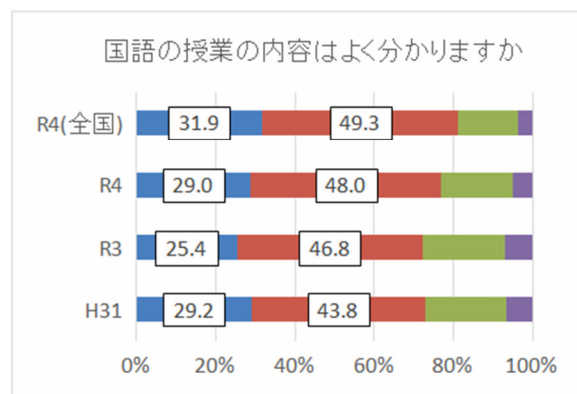
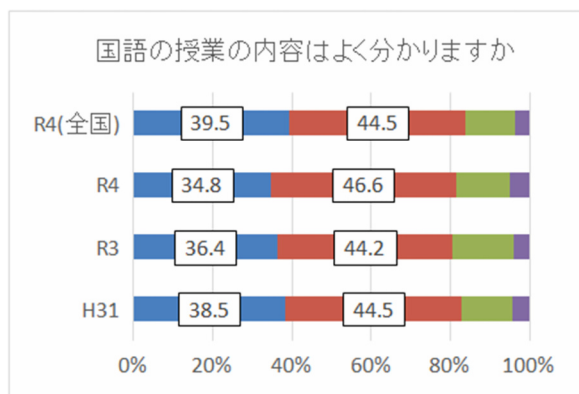
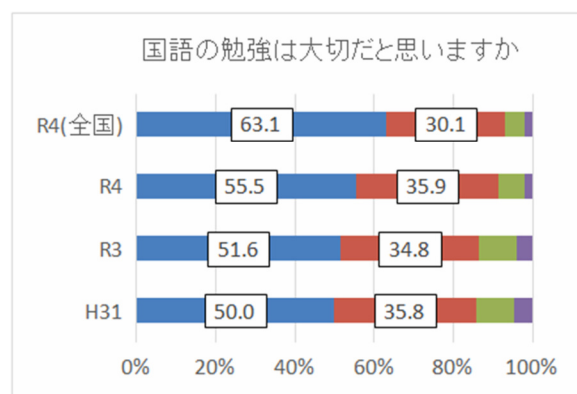
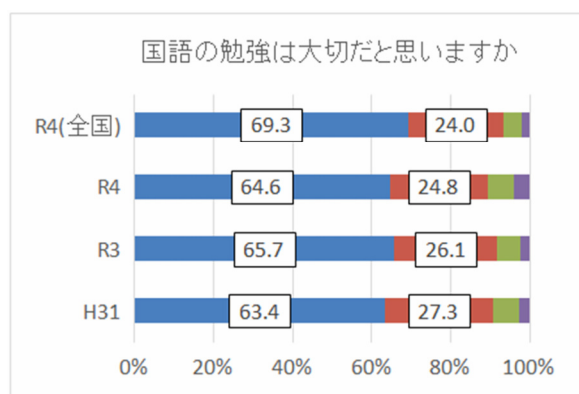
【小学校】



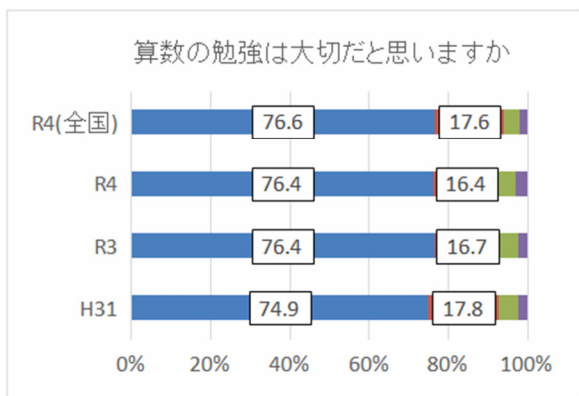
【中学校】



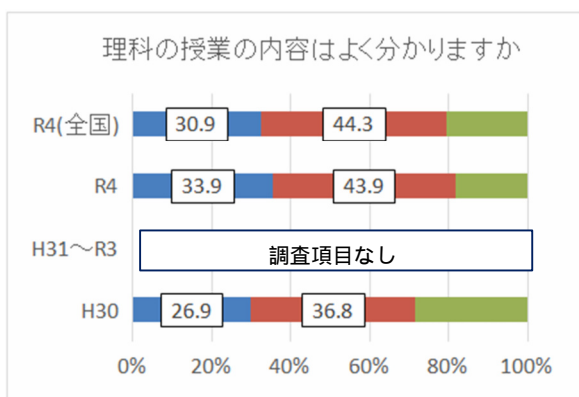
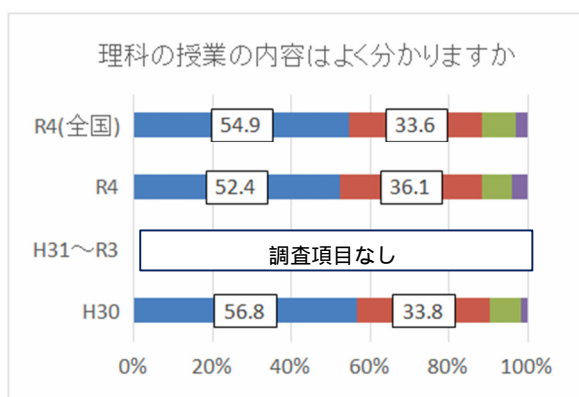
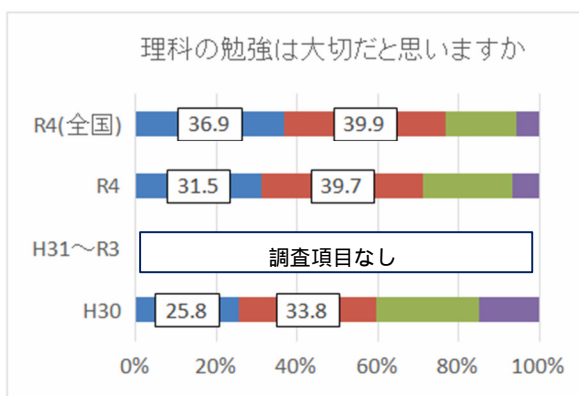
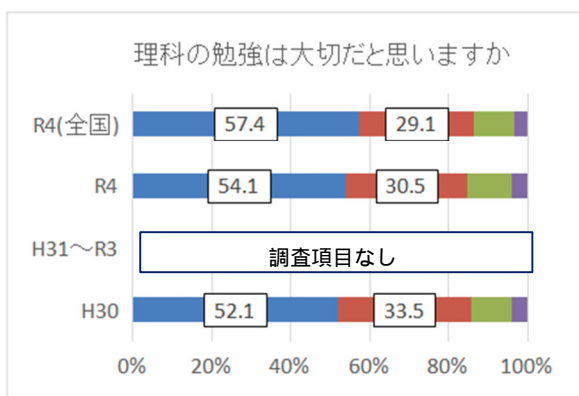
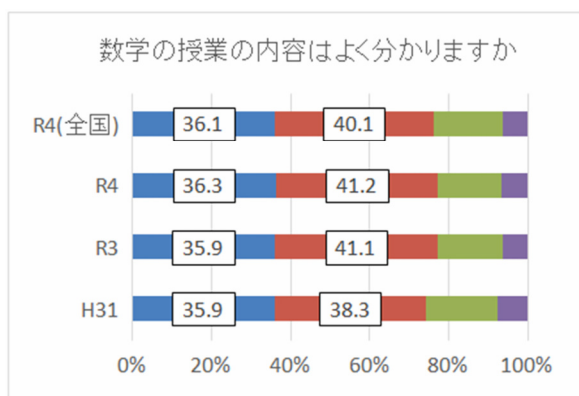
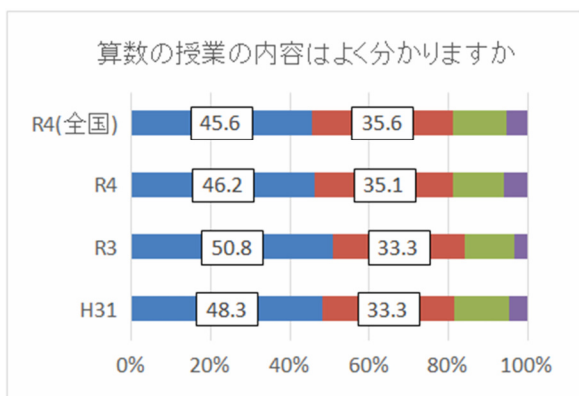
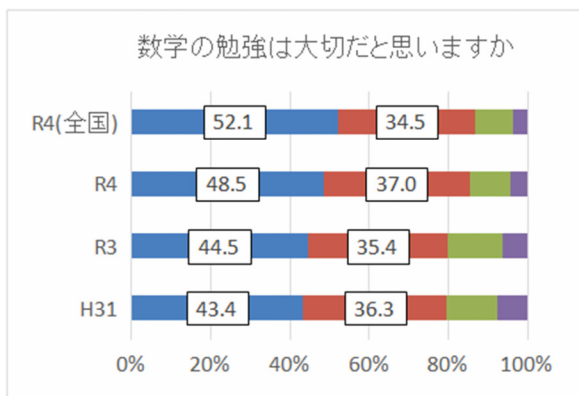
学習に対する興味・関心や授業の理解度等



【小学校】



【中学校】



5. 子ども達の学びを支える「学校・教育委員会」の取り組み

学 校

兵庫県教育委員会が主催している「学力向上シンポジウム」に出席し、各校の全国学力・学習状況調査の活用に役立てる。

子どもの正確な実態把握とそれに即した授業内容の工夫を行う。

学習活動の工夫を図り、主体的・対話的で深い学びを展開する。

ALT を活用し、英語によるコミュニケーションを図る授業設定を行う。

安心して安全な環境に向けた学習規律の確立を図る。

「道徳教育」「総合的な学習」「体験活動」の充実を図る。

「社会に開かれた教育課程」を目指し、家庭・地域と連携・協働する。

教育委員会

兵庫県教育委員会が作成している「学びのデジタルガイド」等を活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善支援を行う。

子ども達の学びを支える教職員の資質向上を図るため、オンライン会議システム等を活用し、教員研修を充実させる。

タブレット PC などの、ICT 機器の活用方法について交流の場を設け、「協働的な学び」「個別最適な学び」の充実を図る。

英語によるコミュニケーション力をより一層育成するため ALT の配置を継続する。

教職員の業務改善を行い、子どもと向き合う時間を確保する。

放課後学習支援「きんたくん学びの道場」の学習支援員の配置を継続する。